

左ページ

部会素案

(第2回部会の事務局案に部会意見を反映したもの)

第6次宝塚市総合計画

# 基本構想

(部会素案)

右ページ

部会案

(部会素案に対する意見を反映したもの)

資料1

第6次宝塚市総合計画

# 基本構想

(部会案)

## 基本構想

### 1 スローガン

#### わたしの舞台は たからづか

これからのまちづくりを市民と行政がともに進めるにあたり、「わたしの舞台は たからづか」をスローガンに掲げます。

このスローガンには、

一人ひとりの「活動・活躍できる場」(舞台)をつくり、

あらゆる人の「暮らし」(舞台)を支え、

「まち」(舞台)を未来につなげていく、

との想いを込めています。

宝塚に関わるすべての人が幸せと感じられ、安心な毎日を過ごすことができる未来を願い、このスローガン掲げ、まちづくりを進めます。

このスローガンのフレーズは、第6次総合計画の策定に向けた市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」の提言書の中で、まちづくりの視点として提言されたものです。

「市民が主体となり、こどもから大人まであらゆる世代がまちづくりに関わる必要があります。『やりたい』ことができる環境を創り出し、まちを若返らせ、多くの市民が『つながり』を持てるようになることが大切」との想いが込められています。

このフレーズに込められた想いを受け止め、さらに発展させ、総合計画のスローガンとして定めることとします。

## 基本構想

### 1 スローガン

#### わたしの舞台は たからづか

このまちをより良くしていくための取組がまちづくりです。

これからのまちづくりを市民と行政がともに進めるにあたり、「わたしの舞台は たからづか」をスローガンに掲げます。

このスローガンには、

「活動・活躍できる場」(舞台)をつくり

「暮らし」(舞台)を支え

「まち」(舞台)を未来につなげていく

との想いを込めています。

宝塚に関わるすべての人が幸せと感じられ、安心な毎日を過ごすことができる未来を願い、このスローガン掲げ、まちづくりを進めます。

このフレーズは、第6次総合計画の策定に向けた市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」の提言書の中で、まちづくりの視点として提言されたものです。

「市民が主体となり、こどもから大人まであらゆる世代がまちづくりに関わる必要があります。『やりたい』ことができる環境を創り出し、まちを若返らせ、多くの市民が『つながり』を持てるようになることが大切」との想いが込められています。

この想いを受け止め、さらに発展させ、総合計画のスローガンとして定めることとします。

## 2 まちづくりの視点

これからのまちづくりを市民と行政がともに進めるにあたり、3つの重要なまちづくりの視点を定めます。

### (1) 舞台（活動・活躍できる場）をつくる

一人ひとりの活動・活躍できる場をつくります。

協働のまちづくりを進めるためには、それぞれの想いを行動に移していくことが大切であり、「やりたい」ことができる環境を整え、人と人の「つながり」づくりに取り組みます。

### (2) 舞台（暮らし）を支える

あらゆる人の暮らしを支え、誰もが幸せに生き続けられるまちづくりを推進します。

あらゆる人の人権が尊重され、自分らしくいきいきと生き続けられるようお互いさまがあふれるまちづくりに取り組みます。また、人口減少・少子高齢社会の進展を見据え、子育て世代が住んでみたいと思えるまちづくりに取り組みます。

### (3) 舞台（まち）を未来につなげる

まちを未来につなげるため、活力を創出し、将来を見据えた持続可能なまちづくりを推進します。

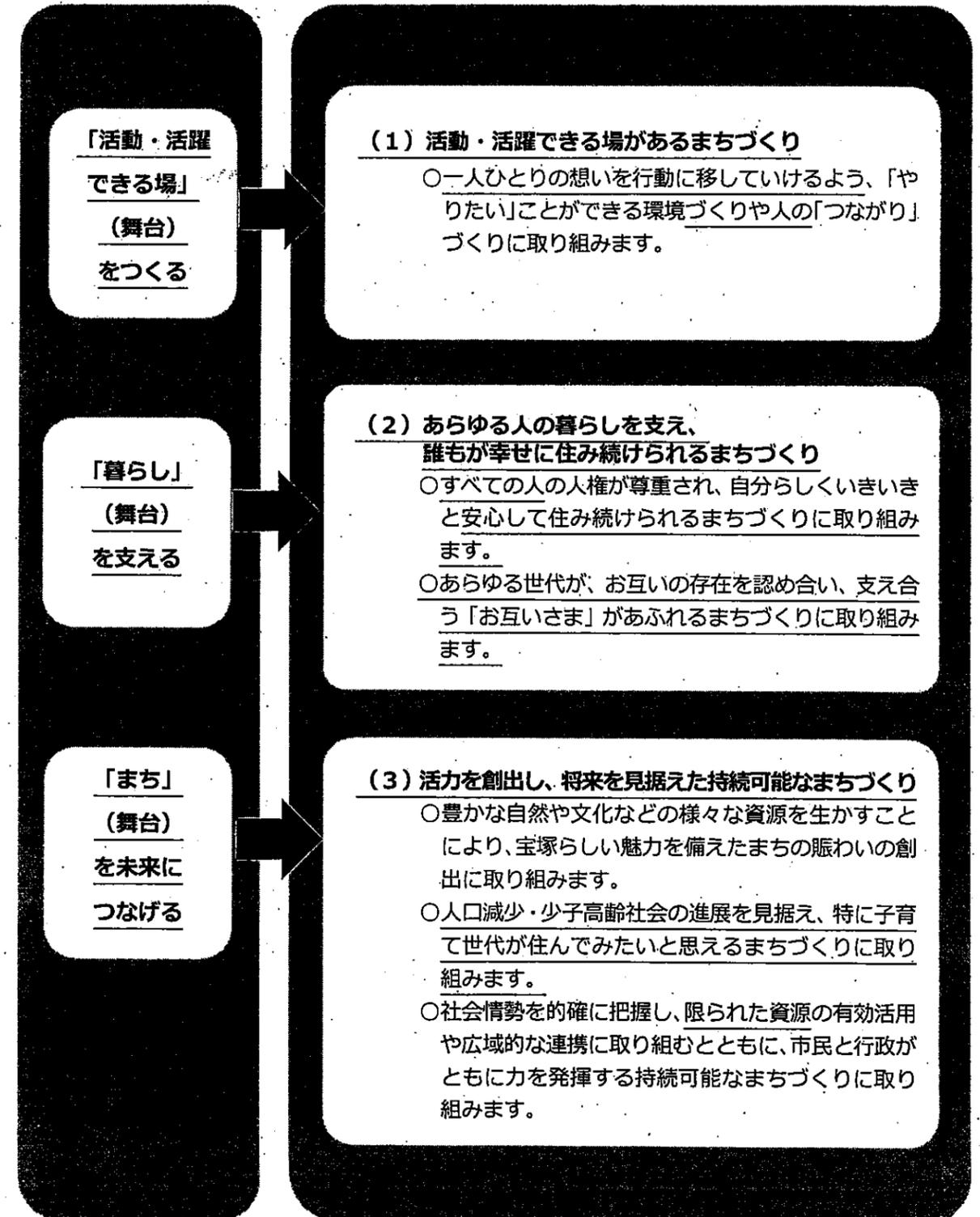
豊かな自然や文化など様々な資源を生かすことにより、宝塚らしい魅力を備えたまちの賑わいの創出に取り組みます。また、社会情勢を的確に把握し、ヒト・モノ・カネ・情報の有効活用や広域的な連携に取り組むとともに、市民と行政がともに力を発揮する持続可能なまちづくりに取り組みます。

## 2 まちづくりの視点

スローガンに込められた想いの実現に向けて、3つの重要なまちづくりの視点を定めます。

スローガンに込められた想い

3つの重要なまちづくりの視点





#### 4 めざすまちの姿

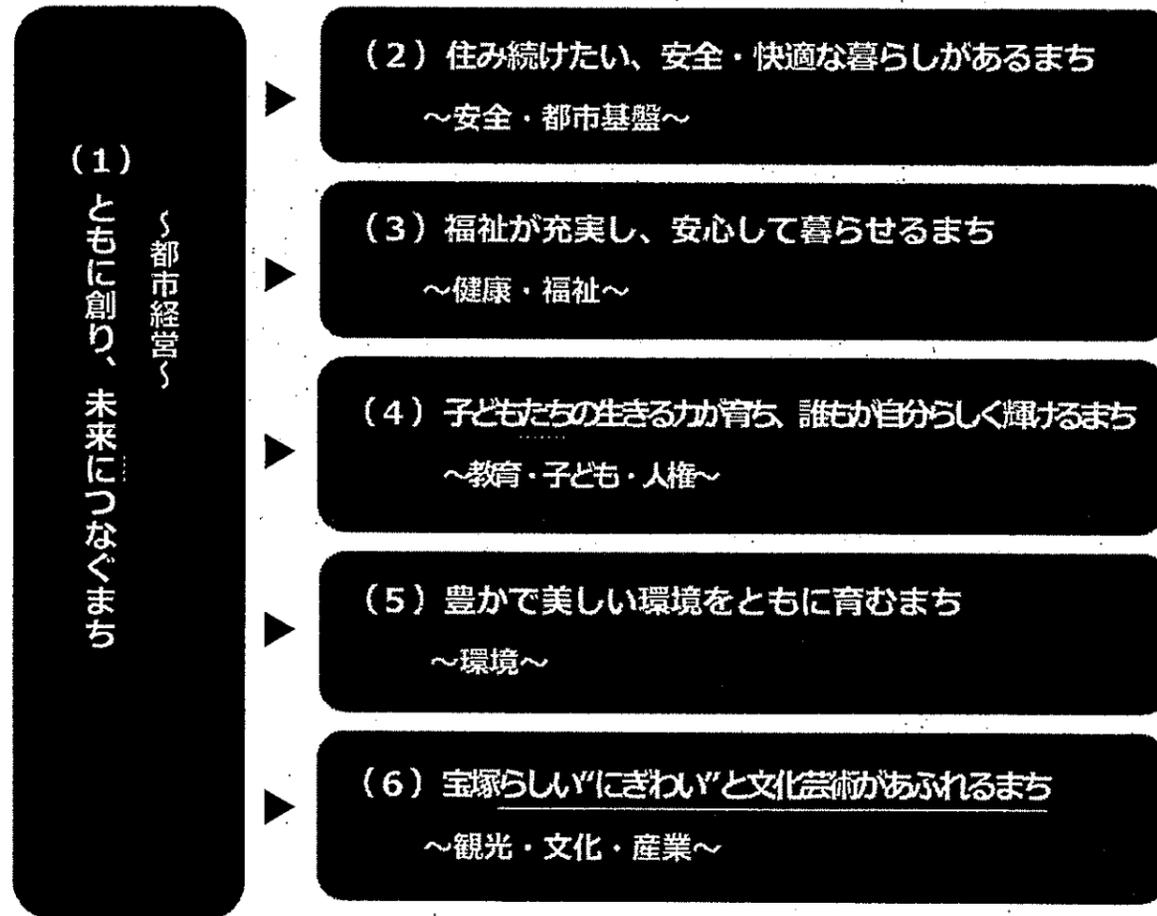
まちづくりの視点、将来都市構造の基本的な考え方を踏まえ、10年後のめざすまちの姿を以下のとおり定めます。

(1)は5つの分野に共通するものとして、(2)～(6)は、市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書をもとに、現状認識（社会経済動向や宝塚市の現状、市民アンケート調査の結果等）を踏まえ定めるものです。

##### 【6つのめざすまちの姿】

5つの分野に共通する  
めざすまちの姿

5つの分野ごとのめざすまちの姿



#### 4 めざすまちの姿

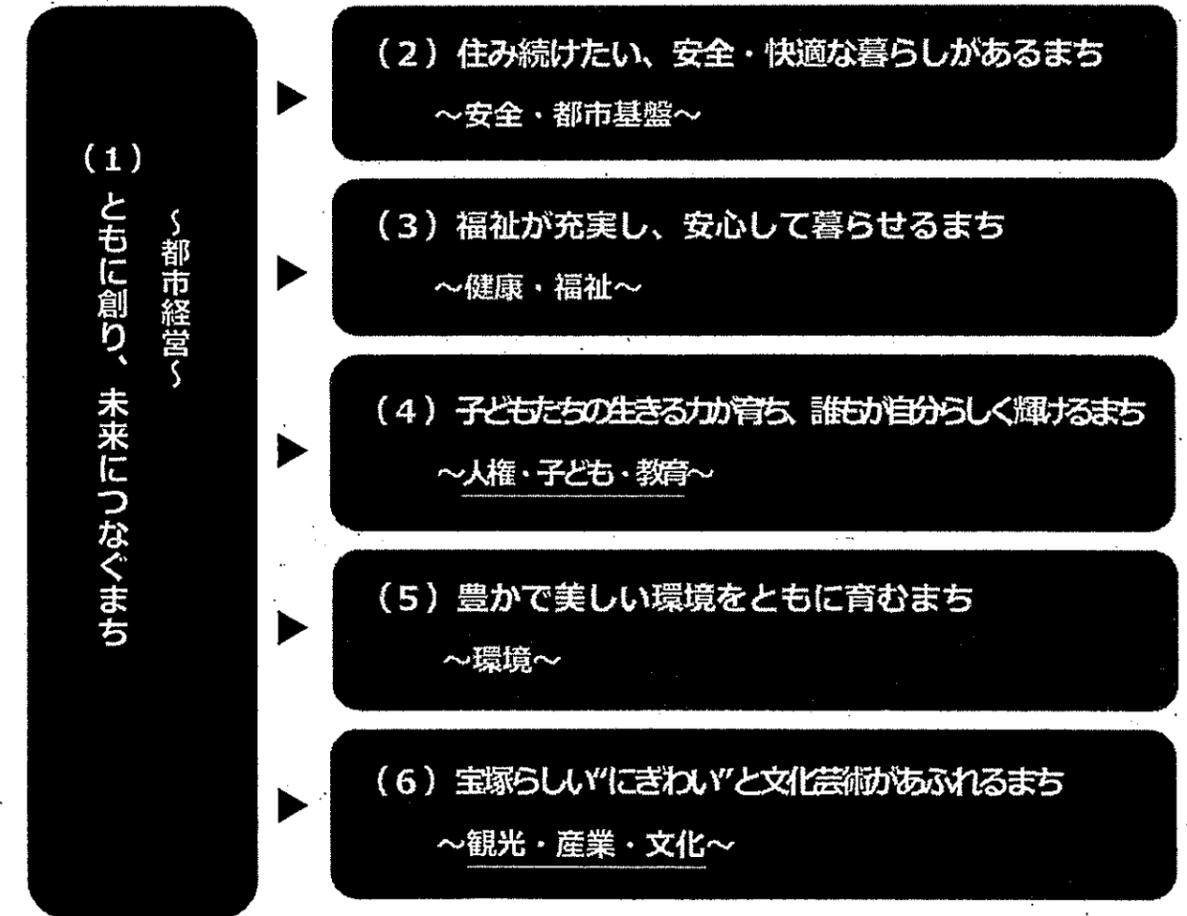
まちづくりの視点、将来都市構造の基本的な考え方を踏まえ、10年後のめざすまちの姿を以下のとおり定めます。

(1)は5つの分野に共通するものとして、(2)～(6)は、市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書をもとに、現状認識（社会経済動向や宝塚市の現状、市民アンケート調査の結果等）を踏まえるとともに、「地域ごとのまちづくり計画」の地域の将来像と整合を図り、定めるものです。

##### 【6つのめざすまちの姿】

5つの分野に共通する  
めざすまちの姿

5つの分野ごとのめざすまちの姿



(1) ともに創り、未来につなぐまち

～都市経営～

- 「やりたい」ことができる環境が整えられ、市民主体のまちづくりが展開されている。
- 協働の理解や取組が広まり、市民と行政がそれぞれの役割を果たし、連携しながら、まちづくりを進めている。
- ICTの活用により、市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが行われている。
- 知りたい情報に容易にアクセスし活用することができ、ICTを活用して便利で豊かな生活が送れている。
- 人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、将来を見据えた行財政運営により、安定した行政サービスが提供されている。

市民自治
市民と行政との協働
開かれた市政
情報化
行財政運営

めざすまちの姿

※「ともに」の主体は、「市民と行政」、「市民と市民」。



現状認識

自治会加入率は減少傾向にある。行政との協働の取組を行っている人の割合は3.5%と低い。人口減少社会が到来し、少子高齢化が進行する中、まちづくりの担い手づくりが課題である。

近年、ICTが普及・発展し、情報や人の交流が拡大している。交流と対話によるまちづくりが求められる中、ICTを活用し、情報共有を進めることが重要となる。

オープンデータ、ビッグデータの利活用やAI、RPAをはじめとする先端技術の導入による行政運営が広がりをみせている。

人口減少、少子高齢化など社会構造が変化しており、今後、財政運営にも大きく影響してくると考えられる。将来を見据えた行財政運営が求められている。

(1) ともに創り、未来につなぐまち

～都市経営～

- 「やりたい」ことができる環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。
- 協働の理解や取組がさらに広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。
- 市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。
- ICT技術の活用による「スマート自治体」の推進により、市民の利便性が向上している。
- 人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、将来を見据えた持続可能な行財政運営により、効果的な行政サービスが提供されている。

市民自治・協働
開かれた市政
情報化
行財政運営

めざすまちの姿

※「ともに」の主体は、「市民と行政」、「市民と市民」。



現状認識

自治会加入率は減少傾向にある。行政との協働の取組を行っている人の割合は3.5%と低い。人口減少社会が到来し、少子高齢化が進行する中、まちづくりの担い手づくりが課題である。

近年、ICTが普及・発展し、情報や人の交流が拡大している。交流と対話によるまちづくりが求められる中、ICTを活用し、情報共有を進めることが重要となる。

Society5.0（超スマート社会）における技術発展に対応した自治体への転換を図るため、AIなど高度なICT技術を使ったスマート自治体の取組が求められている。

SDGsの推進による持続可能な社会の実現と将来を見据えた行財政運営が求められている。

(2) 住み続けたい、安全・快適な暮らしがあるまち

～安全・都市基盤～

- 市民と行政の連携による災害への備えにより、自らを守り、地域で助け合う意識が高まり、地域の防災力が強化されている。
- 充実した消防救急体制のもとで、安心して暮らしている。
- 命や生活に関わるあらゆる危機の被害を防止または軽減するとともに、危機発生時には、迅速に適切な対応をとれる体制が整っている。
- 犯罪や消費者被害、交通事故がなく、誰もが安全・安心に暮らしている。
- 人口減少、少子高齢社会に対応し、豊かな自然や住宅都市、観光文化都市としての特性を生かしつつ、都市機能を集積させるコンパクトなまちづくりが進んでいる。
- 誰もがずっと住み続けたい、移り住みたいと思える魅力的な住環境が整っている。
- 歩行者や車両にとって安全で快適な道路環境の整備が進み、市民一人ひとりの生活を支える公共交通手段が確保されている。
- 河川の治水や土砂災害を防止する対策が進むとともに、うるおいや安らぎある水辺空間がつくられている。
- 安全でおいしい水が安定して供給され、公共下水も適正に処理されている。

防災・消防

危機管理

防犯・交通安全・消費生活

土地利用・市街地・北部整備

住宅・住環境

道路・交通

河川・水辺空間

上下水道

めざすまちの姿

(2) 住み続けたい、安全・快適な暮らしがあるまち

～安全・都市基盤～

- 命や生活に関わる危機に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応をとれる体制が整っている。
- 地震や風水害に市民と行政がともに備え、地域で助け合う意識が高まることにより防災力が強化されている。
- 充実した消防救急体制のもとで、安心して暮らしている。
- 犯罪や交通事故がなく、誰もが安全・安心に暮らしている。
- 消費者トラブルの予防や対処に関する知識が広がり、自ら考え行動する消費者が増えている。
- 人口減少、少子高齢社会に対応し、豊かな自然や文化など様々な特性を生かしつつ、都市機能を集積するなどコンパクトなまちづくりが進んでいる。
- 良好な住宅を次の世代へつなぎ、誰もがずっと住み続けたいと思える魅力的な住環境が整っている。
- 歩行者や車両にとって安全で快適な道路環境の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。
- 河川の治水や土砂災害対策が進むとともに、うるおいや安らぎある水辺空間がつくられている。
- 安全でおいしい水が安定して供給され、公共下水も適正に処理されている。

危機管理・防災・消防

防犯・交通安全

消費生活

土地利用・市街地・北部整備

住宅・住環境

道路・交通

河川・水辺空間

上下水道

めざすまちの姿



近年、地震や豪雨が多発している。地域における自助、共助の取組を引き続き充実させていくとともに、いざという時でも安心できる体制づくりに取り組む必要がある。

人口あたり犯罪発生件数は比較的少なく、減少傾向にあり、市民アンケートでも治安の良さが評価されている。人身事故、死傷者数は減少していたが、近年は、増加傾向にある。

人口減少、少子高齢化時代に対応した土地利用が求められている。

市民アンケートで住環境の良さが評価されており、魅力の一つとなっている。

市民アンケートでは、「道路・交通」施策に対する満足度は低い。道路環境の改善やあらゆる世代に対応した公共交通の確保が求められている。

引き続き、ライフラインの一つである上下水道の安全安心を確保していく必要がある。

現状認識

南海トラフ地震等の地震や風水害に備えるため、自助、共助の取組を引き続き充実させ、いざという時でも安心できる体制づくりに取り組む必要がある。

人口あたり犯罪発生件数は、減少傾向にある。人身事故、死傷者数は減少していたが、近年は、増加傾向にある。より安全安心なまちにしていく必要がある。

消費生活相談の相談件数は約2,000件前後で推移している。自ら考え行動する消費者を育てることが求められている。

人口減少、少子高齢社会に対応した土地利用が求められている。

市民アンケートで住環境の良さが評価されている。しかし、少子高齢化による住環境の変化が起きており、社会情勢に対応した取組が必要である。

市民アンケートでは、「道路・交通」施策に対する満足度が低い。道路環境の改善やあらゆる世代に対応した移動手段の確保が求められている。

近年、集中豪雨が多発している。関係機関との連携による総合的な治水対策が求められている。また、水辺空間をまちづくりに生かしていく必要がある。

引き続き、ライフラインの一つである上下水道の安全安心を確保していく必要がある。

現状認識

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

若返る安全・快適 Let's 生き活きたからづか

- ◇ 人口の構成が若返って、まちの活力が維持されている。
- ◇ 住環境が向上する。
- ◇ 安全な生活ができている。
- ◇ いざという時でも安心できる体制が整っている。

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

若返る安全・快適 Let's 生き活きたからづか

- ◇ 人口の構成が若返って、まちの活力が維持されている。
- ◇ 住環境が向上する。
- ◇ 安全な生活ができている。
- ◇ いざという時でも安心できる体制が整っている。

(3) 福祉が充実し、安心して暮らせるまち

～健康・福祉～

- あらゆる立場の人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしができています。
- 全世代にわたり、困難を抱える人も安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。
- 高齢者がいきいきと活動し、健康でいきがいのある生活を送っている。また、元気な高齢者が地域の様々な支え手になっている。
- 障害(がい)者が地域で暮らしていくための様々な支援を受けながら、自立した生活を送り、社会に参加している人が増えている。
- あらゆる世代で体とこころの健康づくりが進み、安心して健やかな暮らしができています。
- 保健、医療、福祉の連携が進み、病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整っている。
- 若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心して健やかな暮らしが守られている。

地域福祉
高齢者福祉
障害者福祉
健康
保健・医療
社会保障

めざすまちの姿

(3) 福祉が充実し、安心して暮らせるまち

～健康・福祉～

- あらゆる世代で体とこころの健康づくりが進み、安心して健やかな暮らしができています。
- 保健、医療、福祉の連携が進み、病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整っている。
- すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしができています。
- 全世代にわたり、困難を抱える人も安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。
- 高齢者がいきいきと活動し、健康でいきがいのある生活を送れ、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。
- 障害(がい)者が地域で暮らしていくための様々な支援を受けながら、自立した生活を送り、社会に参加している人が増えている。
- 社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心して健やかな暮らしが守られている。

健康・医療
地域福祉
高齢者福祉
障害者福祉
社会保障

めざすまちの姿



現状認識

人と人との関係が希薄化し、孤立する人が増加しており、単身世帯も増加している。住民同士で支え合う地域社会や安心できる居場所、支援体制が求められている。

高齢化が進行しており、要介護・要支援認定を受けている高齢者の比率は増加傾向にある。高齢者の社会参加を促進する必要がある。

障害者手帳、療育手帳の所持者数は微増で推移している。障害(がい)者が地域で安心して暮らせ、自立した生活や社会参加ができるようにしていくことが大切である。

生活習慣病や歯周病、こころの病が増加しているため、ライフステージに応じた健康づくりが必要である。

高齢者の増加に伴い、在宅医療のニーズが高まることから、保健、医療、福祉のさらなる連携が求められている。

生活保護世帯は微増で推移している。若い世代をはじめ、様々な世代でニート・ひきこもりなどの問題が深刻化している。一人あたりの国民健康保険給付費は増加傾向にある。

人と人との関係が希薄化し、孤立する人が増加しており、単身世帯も増加している。住民同士で支え合う地域社会や安心できる居場所、支援体制が求められている。

生活習慣病や歯周病、こころの病が増加している。ライフステージに応じた病気の予防や、健診の受診、食育の推進などにより、あらゆる世代の健康づくりを進めていく必要がある。高齢者の増加に伴い、在宅医療のニーズが高まることから、保健、医療、福祉のさらなる連携が求められている。

高齢化が進行しており、要介護・要支援認定を受けている高齢者の比率は増加傾向にある。高齢者の社会参加を促進する必要がある。

障害者手帳の所持者数は微増で推移している。障害(がい)者が地域で安心して暮らせ、自立した生活や社会参加ができるようにしていくことが大切である。

生活保護世帯は微増で推移し、若い世代をはじめ、様々な世代でニート・ひきこもりなどの問題が深刻化しており、自立への支援が求められている。国民健康保険事業の健全で安定的な運営が求められている。

現状認識

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

つながりの中で『すこやか』があふれるまち

- ◇ 健やかに暮らせる市民がたくさんいる。
- ◇ つながりが多様になり生きがいがある暮らしができています。

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

つながりの中で『すこやか』があふれるまち

- ◇ 健やかに暮らせる市民がたくさんいる。
- ◇ つながりが多様になり生きがいがある暮らしができています。

(4) 子どもたちの生きる力が育ち、誰もが自分らしく輝けるまち  
～教育・子ども・人権～

子どもたちの  
暮らしの聲

- 子どもたちが、豊かな自然や文化に触れ、異世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。また、子どもたちの意見がまちづくりに生かされている。
- 妊娠期からの切れ目ない支援により、家庭環境や経済的状况に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。
- 学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓く子どもたちの生きる力やふるさと宝塚を大切に作る心が育まれている。
- 誰もが生涯を通じて学ぶことができ、その成果が個人や地域に還元され、まちづくりに生かされている。
- 交流を通じた生きがいや健康・体力づくりのため、様々な人がスポーツに親しんでいる。
- すべての人の人権が尊重され、あらゆる人が自分らしくいきいきと暮らすことができている。

児童福祉・青少年育成

学 校 教 育

社 会 教 育

ス ポ ー ツ

人権・同和、男女共同参画

現状認識

子どもがいきいきと育つ環境づくりや子どもの社会参加の促進が必要である。また、共働き世帯やひとり親家庭をはじめ、不安や悩みを抱えるすべての家庭への切れ目ない支援が必要である。

家庭や地域における人間関係の希薄化、子どもの自尊感情を育む機会の減少、子どもの貧困などへの対策が必要であり、学校や家庭、地域が一体となった取組が求められている。

市民アンケートでは、学習活動への参加状況は2割程度で推移している。学びの場・機会を拡大し、学びの成果をまちづくりに生かしていくことが大切である。

スポーツは、生きがい・健康・体力づくり・青少年の健全育成など、様々な価値や社会的便益をもたらす可能性がある。市内のスポーツ系施設の利用は増加傾向にある。

DV相談件数は増加傾向にある。インターネットによる人権侵害が発生している。ワーク・ライフ・バランス、性的マイノリティ(LGBT)、在日外国人との共生に対する社会の意識が高まっている。

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

あそびがそだつ こどもがつくる

- ◇ あそびの場や子育て環境が充実している。
- ◇ 日常的に子ども同士や世代を超えた交流ができる。
- ◇ 次世代を担う子どもたちが、地域や学校の活動の中で、地域、社会への関わり方を学び、まちづくりに参加している。

(4) 子どもたちの生きる力が育ち、誰もが自分らしく輝けるまち  
～人権・子ども・教育～

子どもたちの  
暮らしの聲

- すべての人の人権が尊重され、あらゆる人が自分らしくいきいきと暮らすことができている。
- 子どもたちが、豊かな自然や文化に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。また、子どもたちの意見がまちづくりに生かされている。
- 妊娠期からの切れ目ない支援により、家庭環境や経済的状况に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。
- 学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓く子どもたちの生きる力やふるさと宝塚を大切に作る心が育まれている。
- 誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりに生かされている。
- 生きがいや健康・体力づくりのため、様々な人がスポーツに親しんでいる。

人権・同和・男女共同参画

児童福祉・青少年育成

学校教育

社会教育

現状認識

差別解消に向けた法整備が進む一方で、インターネットの普及による人権侵害が広がっている。多様化する人権問題への認識と理解を深めていくことが大切である。

子どもがいきいきと健やかに育つ環境づくりや子どもの最善の利益を考慮した取組が大切である。また、子どもの社会参加の促進とその行動を支援する人材育成が必要である。子育ての孤立感や負担感が高まっている中、発達課題を抱えた子どもとその家庭への支援や児童虐待の発生防止のために、関係機関が連携し、切れ目ない支援取組が必要である。

家庭や地域における人間関係の希薄化、子どもの自尊感情を育む機会の減少、子どもの貧困などへの対策が必要であり、学校や家庭、地域が一体となった取組が求められている。

市民アンケートでは、学習活動への参加状況は2割程度で推移している。学びの場・機会を拡大し、学んだことがまちづくりに生かされることが大切である。スポーツは、生きがい・健康・体力づくり、青少年の健全育成など、様々な有用性がある。誰もが、いつでも、どこでもスポーツに取り組める環境づくりを推進する必要がある。

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

あそびがそだつ こどもがつくる

- ◇ あそびの場や子育て環境が充実している。
- ◇ 日常的に子ども同士や世代を超えた交流ができる。
- ◇ 次世代を担う子どもたちが、地域や学校の活動の中で、地域、社会への関わり方を学び、まちづくりに参加している。

(5) 豊かで美しい環境をともに育むまち

～環境～

- 北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしい景観が保たれ、魅力を増している。
- まちに花や緑があふれ、地域のニーズにあった魅力的な公園づくりが進み、住む人、訪れる人を魅了し、利用されている。
- 自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性の保全と人との共生が図られている。
- 地球温暖化の防止に向け、省エネルギーの取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。
- ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会に向けた取組が進んでいる。
- まちの美化活動により、清潔で快適な生活環境が保たれている。

都市景観

緑化・公園

環境保全

循環型社会

都市美化・環境衛生

めざましまちの姿



市民アンケートでは、「都市景観」施策に対する満足度は高い。引き続き、宝塚らしい景観を守り育てていく必要がある。

市民アンケートでは、他都市より優れていることの1位がまちに緑や花があふれているところとなっている。地域ニーズにあった魅力的な公園づくりが求められている。

里地里山・まち山など、自然豊かな環境を有し、魅力の一つとなっているが、昔はどこにでもいた動植物の絶滅が危惧されている。

環境・経済・社会の良好なバランスと秩序を保った、持続可能な社会システムの構築が求められている。

資源リサイクル率は30%前後の比較的高い率で推移し、市民一人1日あたりの燃やすごみ量は減少傾向にある。引き続き、3R（発生抑制、再使用、再資源化）を推進する必要がある。

市民アンケートでは、取り組むべきと感じている環境問題1位が生活環境の保全（ポイ捨て禁止など）となっており、市民の生活環境保全に対する意識は高い。

現状認識

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

あふれる自然が夢となるまち

- ◇ 美しい自然の中で恵みある暮らしができています。
- ◇ 自然が守られ、活用（遊びなど）されている。

(5) 豊かで美しい環境をともに育むまち

～環境～

- 北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしい景観が保たれ、魅力を増している。
- まちに花や緑があふれ、地域のニーズにあった魅力的な公園づくりが進み、住む人、訪れる人を魅了し、利用されている。
- 自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性の保全や人と自然との共生が図られている。
- 地球温暖化の防止に向け、省エネルギーの取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。
- ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会に向けた取組が進んでいる。
- まちの美化活動により、きれいで快適な生活環境が保たれている。

都市景観

緑化・公園

環境保全

循環型社会

都市美化・環境衛生

めざましまちの姿



市民アンケートでは、「都市景観」施策に対する満足度は高い。引き続き、宝塚らしい景観を守り育てていく必要がある。

市民アンケートでは、他都市より優れていることの1位がまちに緑や花があふれているところとなっている。地域ニーズにあった魅力的な公園づくりが求められている。

里地里山・まち山など、自然豊かな環境を有し、魅力の一つとなっているが、動植物の絶滅が危惧されている。生物多様性の保全や人と自然との共生を図っていく必要がある。

資源リサイクル率は30%前後で推移し、市民一人1日あたりの燃やすごみ量は減少傾向にある。引き続き、3R（発生抑制、再使用、再資源化）を推進する必要がある。

市民アンケートでは、取り組むべきと感じている環境問題1位が生活環境の保全（ポイ捨て禁止など）となっており、市民意識の向上が求められている。

現状認識

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

あふれる自然が夢となるまち

- ◇ 美しい自然の中で恵みある暮らしができています。
- ◇ 自然が守られ、活用（遊びなど）されている。

(6) 宝塚らしいにぎわいと文化芸術があふれるまち

～観光・文化・産業～

- 既存の地域資源の活用等により、新たな魅力が創出され、その魅力が国内外に伝わり、訪れる人が増えている。
- 起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物する人や働く人が増えている。
- 「花き・植木」や「西谷野菜」など宝塚産の農産物が都市ブランドを形成し、農業を志す人が増えるとともに、市民が身近に「農」に触れている。
- 多様な働き方が広がり、働く意欲を持つすべての人が安心していきいきと働いている。
- 文化芸術が日々の暮らしの中にあふれ、多くの人が文化芸術を気軽に楽しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。
- 国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、ともに生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。

観光
商業・サービス業・工業
農業
雇用・勤労者福祉
文化・国際交流

宝塚らしいにぎわい



現状認識

観光資源が豊富にあり、平成29年度(2017年度)には宝塚北スマートインターチェンジ、サービスエリアが開業した。訪日外国人は増加傾向にある。

市民アンケートで買い物や余暇活動が不便との声が多い。人口減少によるまちの活力の低下が懸念され、産業活性化に向けた取組が求められている。

農家戸数は減少傾向にあり、担い手、後継者不足の課題を抱え、伝統的産業である花き・植木も低迷している。西谷の人口が減少しており、活性化が求められている。

市内従業割合は低い。共働き世帯の増加、ワーク・ライフ・バランスへの意識の高まりなど、ライフスタイルも変化しており、多様な働き方への対応が求められている。

文化芸術を心豊かな市民生活やまちの活力向上に生かしていく必要がある。在日外国人との共生に対する社会の意識が高まってきている。

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

“にぎわい”を創り続けるまち

- ◇ 市内で買い物・飲食をもっと楽しんでいる。
- ◇ 西谷に行きたいと思う人が歌劇を観に行きたいと思う人と同じくらい増えている。
- ◇ 市民も市外の人も、まち(市街地・西谷地域)の情報をよく知り、利用している。

文化・歴史街道 たからづか

- ◇ 教育現場で子どもが宝塚の歴史に親しんでいる。
- ◇ 宝塚の文化・歴史が十分に発信できている。
- ◇ 大人(市民・観光客)が宝塚の歴史に親しんでいる。

(6) 宝塚らしい“にぎわい”と文化芸術があふれる、創造性豊かなまち

～観光・産業・文化～

- 既存の地域資源の活用等により、新たな魅力が創出され、その魅力が国内外に伝わり、訪れる人が増えている。
- 起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物する人や働く人が増えている。
- 多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、農産物や加工品のブランド化が進んでいる。
- 多様な働き方が広がり、働く意欲を持つすべての人が安心していきいきと働いている。
- 多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。
- 国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、ともに生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。

観光
商工業
農業
雇用・労働環境
文化・国際交流

宝塚らしいにぎわい



現状認識

平成29年度(2017年度)に宝塚北スマートインターチェンジ、サービスエリアが開業した。訪日外国人は増加傾向にある。豊富にある地域資源を観光振興に生かしていく必要がある。

市民アンケートで買い物や余暇活動が不便との声が多い。人口減少によるまちの活力の低下が懸念され、産業活性化に向けた取組が求められている。

市民農園の利用や農福連携など、農の持つ魅力を生かしていく必要がある。農家戸数は減少傾向にあり、担い手、後継者不足の課題を抱えている。農業を志す人を増やし、活性化を図る必要がある。

市内従業割合は低い。共働き世帯の増加、ワーク・ライフ・バランスへの意識の高まりなど、ライフスタイルも変化しており、多様な働き方への対応が求められている。

文化芸術を心豊かな市民生活やまちの活力向上に生かしていく必要がある。在日外国人との共生に対する社会の意識が高まってきており、多文化共生社会に向けた取組が求められている。

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

“にぎわい”を創り続けるまち

- ◇ 市内で買い物・飲食をもっと楽しんでいる。
- ◇ 西谷に行きたいと思う人が歌劇を観に行きたいと思う人と同じくらい増えている。
- ◇ 市民も市外の人も、まち(市街地・西谷地域)の情報をよく知り、利用している。

文化・歴史街道 たからづか

- ◇ 教育現場で子どもが宝塚の歴史に親しんでいる。
- ◇ 宝塚の文化・歴史が十分に発信できている。
- ◇ 大人(市民・観光客)が宝塚の歴史に親しんでいる。